# 令和２年度
# 教育課程研究集会
# 小・中学校　総合的な学習の時間

奈良県教育委員会事務局　学校教育課
指導主事　　堺　隆宏

# 総合的な学習の時間の学習評価

※参考資料は、下記ＵＲＬからダウンロードできます。
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

# 総合的な学習の時間における評価を行うに当たって

評価の観点については、学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて別紙４を参考に定める。
（平成31年３月29日付け文部科学省通知より）

＜小学校　総合的な学習の時間の記録＞

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 趣旨 | 探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識や技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解している。 | 実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現している。 | 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとしている。 |

＜中学校　総合的な学習の時間の記録＞

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 趣旨 | 探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識や技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解している。 | 実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現している。 | 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとしている。 |

文部科学省通知　別紙４　Ｐ30

・学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定するという総合的な学習の時間の特質から、各学校が観点を設定するという枠組みが維持されている。
・各学校において定める目標と内容には、三つの柱に沿った資質・能力が明示されることになる。
・資質・能力の三つの柱で再整理した新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進するためにも、評価の観点についてこれらの資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に整理し示された。

※指導要録については、これまでどおり、実施した「学習活動」、「評価の観点」、「評価」の三つの欄で構成し、その児童生徒のよさや成長の様子など顕著な事項を文章で記述することが考えられる。

# 「内容のまとまりごとの評価規準」作成の基本的な手順

①各学校において定めた目標と「評価の観点及びその趣旨」を確認する。

②各学校において定めた内容の記述（「内容のまとまり」として探究課題ごとに作成した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。

③「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

# 各学校において定める目標の設定例

〔設定例〕

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

(1) 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。

(2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。

(3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

**学習指導要領　総合的な学習の時間**

第２の１

各学校においては、第１の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

第２の３(1)

各学校において定める目標については、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。

※具体的には、第１の目標の構成に従って次の２点を踏まえる。

①「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通すこと」、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」という、目標に示された二つの基本的な考え方を踏襲する。

②育成を目指す資質・能力については、「育成すべき資質・能力の三つの柱」のそれぞれについて、第１の目標の趣旨を踏まえる。

各学校が取り組んできたこれまでの経験を生かし、各目標の要素のいずれかを**具体化**したり、**重点化**したり、別の要素を**付け加え**たりして目標を設定することが考えられる。

# 「内容のまとまりごとの評価規準」作成の基本的な手順

①各学校において定めた目標と「評価の観点及びその趣旨」を確認する。

**学校において定めた総合的な学習の時間の目標（例）**

探究的な見方・考え方を働かせ，地域の人，もの，ことに関わる総合的な学習を通して，目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し，自己の生き方を考えることができるようにするために，以下の資質・能力を育成する。

| | （1） | （2） | （3） |
|---|---|---|---|
| 目標 | 地域の人，もの，ことにかかわる探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに，地域の特徴やよさが分かり，それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。 | 地域の人，もの，ことの中から問いを見いだし，その解決に向けて見通しをもって調べ，集めた情報を整理．分析し，根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 | 地域の人，もの，ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え，自ら社会に参画しようとする態度を養う。 |

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 目標 | 地域の人，もの，ことにかかわる探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けているとともに，地域の特徴やよさが分かり，それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解している。 | 地域の人，もの，ことの中から問いを見いだし，その解決に向けて見通しをもって調べ，集めた情報を整理．分析し，根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けている。 | 地域の人，もの，ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに，互いのよさを生かしながら，持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え，自ら社会に参画しようとしている。 |

**「知識・技能」の観点の趣旨**

学校において定めた目標のうち、(1)の文末を「～について理解している」、「～を身に付けている」などとして設定することが考えられる。

**「思考・判断・表現」の観点の趣旨**

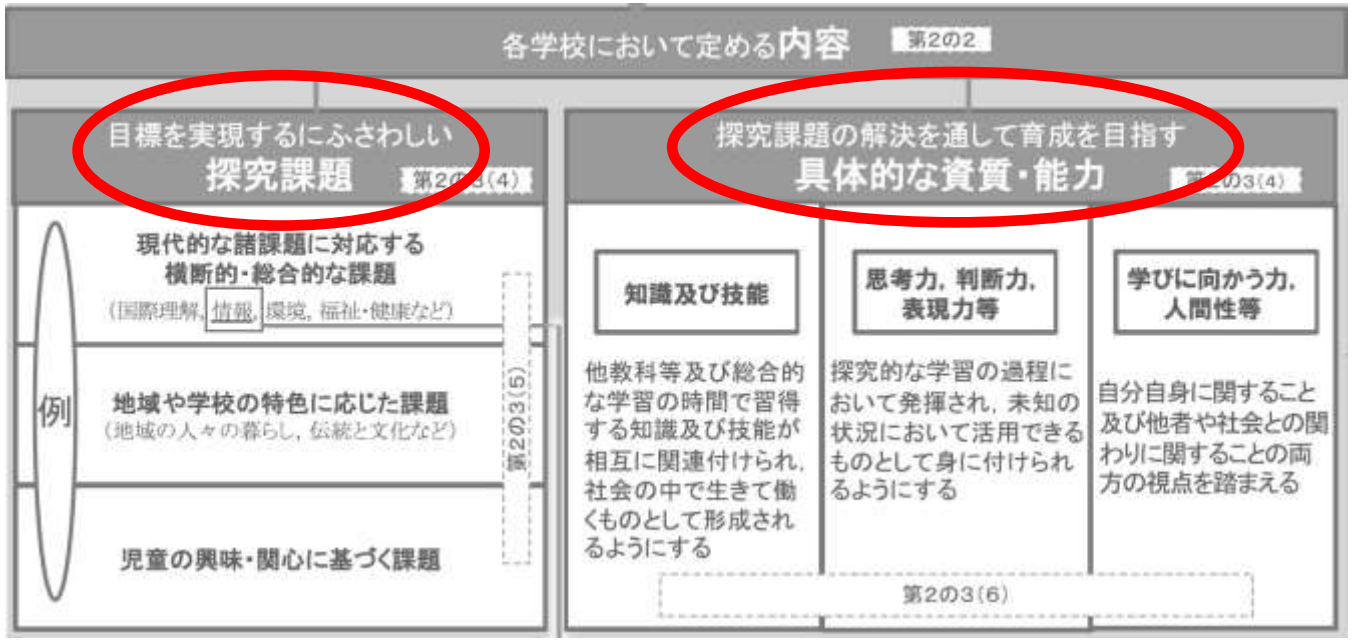
学校において定めた目標のうち、(2)の文末を「～している」として設定することが考えられる。

**「主体的に学習に取り組む態度」の観点の趣旨**

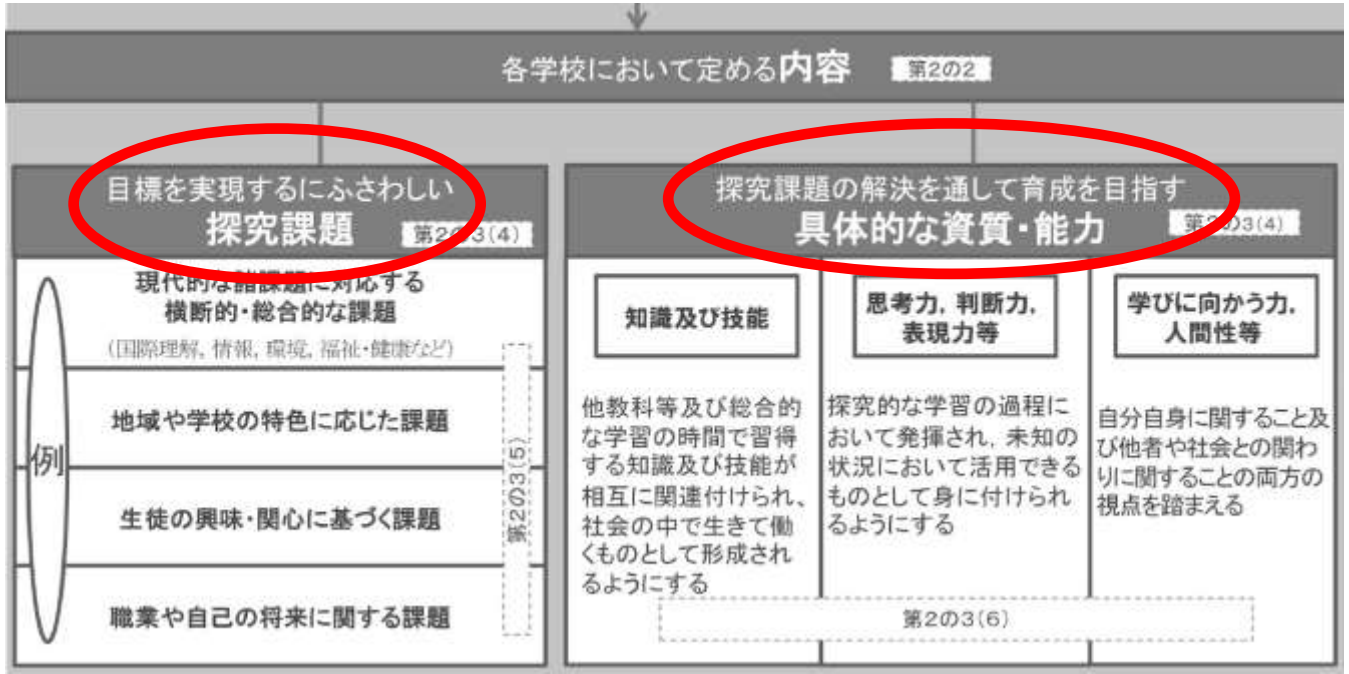
学校において定めた目標のうち、(3)の文末を「～しようとしている」として設定することが考えられる。

# 各学校において定める内容の設定

小学校




中学校




**学習指導要領　総合的な学習の時間**

第２の２

　各学校においては、第１の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

第２の３(4)

　各学校において定める内容については、目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示すこと。

# 「内容のまとまりごとの評価規準」作成の基本的な手順

②各学校において定めた内容の記述（「内容のまとまり」として探究課題ごとに作成した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。

**内容のまとまり（例）**

| 目標を実現するにふさわしい探究課題 | 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力 | | |
|---|---|---|---|
| | 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
| 身近な自然環境とそこに起きている環境問題 | ・生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。<br>・調査活動を，目的や対象に応じた適切さで実施することができる。<br>・環境と生物とが共生していることの理解は，自然環境とそこに生息する生物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。 | ・地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり，解決の見通しをもつことができる。<br>・課題の解決に必要な情報を，手段を選択して多様に収集し，種類に合わせて蓄積することができる。<br>・課題解決に向けて，観点に合わせて情報を整理し考えることができる。<br>・相手や目的に応じて，分かりやすく表現することができる。 | ・課題解決に向け，自分のよさに気付き，探究活動に進んで取り組もうとする。<br>・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。<br>・地域との関わりの中で自分でできることを見付けようとする。 |

**※総合的な学習の時間における「内容のまとまり」とは、一つ一つの探究課題とその探究課題に応じて定めた具体的な資質・能力**

**※「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際のポイント**

・それぞれの文末を次のようにする。

**（知識・技能）**

「理解する」→「理解している」

**（思考・判断・表現）**

「できる」→「している」

**（主体的に学習に取り組む態度）**

「しようとする」→「しようとしている」

# 「内容のまとまりごとの評価規準」作成の基本的な手順

③ 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

**内容のまとまりごとの評価規準（例）**

| 内容のまとまりごとの評価規準 | | | |
|---|---|---|---|
| 探究課題 | 評価の観点 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 身近な自然環境とそこに起きている環境問題 | ・生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解している。<br>・調査活動を，目的や対象に応じた適切さで実施している。<br>・環境と生物とが共生していることの理解は，自然環境とそこに生息する生物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 | ・地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり，解決の見通しをもっている。<br>・課題の解決に必要な情報を，手段を選択して多様に収集し，種類に合わせて蓄積している。<br>・課題解決に向けて，観点に合わせて情報を整理し考えている。<br>・相手や目的に応じて，分かりやすく表現している。 | ・課題解決に向け，自分のよさに気付き，探究活動に進んで取り組もうとしている。<br>・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。<br>・地域との関わりの中で自分でできることを見付けようとしている。 |

**※「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際のポイント**

・それぞれの文末を次のようにする。

**（知識・技能）**

「理解する」→「理解している」

**（思考・判断・表現）**

「できる」→「している」

**（主体的に学習に取り組む態度）**

「しようとする」→「しようとしている」

# 育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の目標」「単元の評価規準」の作成の手順

①「内容のまとまり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。

②「内容のまとまりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての児童生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

# 育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の目標」「単元の評価規準」の作成の手順

①「内容のまとまり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。

内容のまとまり

| 目標を実現するにふさわしい探究課題 | 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力 | | |
|---|---|---|---|
| | 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
| 身近な自然環境とそこに起きている環境問題 | ・生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。<br>・調査活動を，目的や対象に応じた適切さで実施することができる。<br>・環境と生物とが共生していることの理解は，自然環境とそこに生息する生物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。 | ・地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり，解決の見通しをもつことができる。<br>・課題の解決に必要な情報を，手段を選択して多様に収集し，種類に合わせて蓄積することができる。<br>・課題解決に向けて，観点に合わせて情報を整理し考えることができる。<br>・相手や目的に応じて，分かりやすく表現することができる。 | ・課題解決に向け，自分のよさに気付き，探究活動に進んで取り組もうとする。<br>・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。<br>・地域との関わりの中で自分でできることを見付けようとする。 |

この例では、以下の４つの要素を構造的に配列して作成

- 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動
  **（～を通して）**
- 単元において重視する「知識及び技能」
  **（～を理解し）**
- 単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
  **（～について考える）**
- 単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」
  **（～に生かす）**

〔単元の目標〕
　みどり川の自然環境に関わったり環境の保全に向けた取組を行ったりすることを通して、多様な生物が周辺の環境と関わって生きていることを理解し、持続可能な視点から自然環境の在り方について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

# 育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の目標」「単元の評価規準」の作成の手順

②「内容のまとまりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての児童生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

| 内容のまとまりごとの評価規準 | | | |
|---|---|---|---|
| 探究課題 | 評価の観点 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 身近な自然環境とそこに起きている環境問題 | ・生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解している。<br>・調査活動を，目的や対象に応じた適切さで実施している。<br>・環境と生物とが共生していることの理解は，自然環境とそこに生息する生物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 | ・地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり，解決の見通しをもっている。<br>・課題の解決に必要な情報を，手段を選択して多様に収集し，種類に合わせて蓄積している。<br>・課題解決に向けて，観点に合わせて情報を整理し考えている。<br>・相手や目的に応じて，分かりやすく表現している。 | ・課題解決に向け，自分のよさに気付き，探究活動に進んで取り組もうとしている。<br>・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。<br>・地域との関わりの中で自分でできることを見付けようとしている。 |

| 単元名 | 単元の評価規準 | | |
|---|---|---|---|
| | 評価の観点 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 大好き みどり川 | ①みどり川の生物は，互いの特徴を生かし周りの環境と関わって生きていることを理解している。<br>②みどり川にすむ生物の状況を捉えるために，生物種や生息環境に応じた方法でフィールドワークを実施している。<br>③みどり川の環境と自分たちの生活がつながっていることの理解は，川とそこに生息する生物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 | ①みどり川の環境の変化について，水質調査と踏査活動を結び付けて水質悪化の問題を見付け出し，課題を明らかにしている。<br>②みどり川の現状を捉えるために必要な情報について，手段を選択して多様な方法で収集したり，種類に応じて蓄積したりしている。<br>③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり，複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。<br>④みどり川の環境の保全を訴えることについて，調査結果をグラフや地図，写真を使って効果的に表し，報告書にまとめている。 | ①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して，自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。<br>②環境保全に向けた探究的な活動体験を通して，自分と違う友達の考えを生かしながら，協働して課題解決に取り組もうとしている。<br>③環境保全のために自分でできることに取り組むことを通して，自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。 |

# 「単元の評価規準（知識・技能）」作成のポイント

## （１）知識・技能

「知識・技能」の観点については、
①概念的な知識の獲得
②自在に活用することが可能な技能の獲得
③探究的な学習のよさの理解
の三つに関する評価規準を作成することが考えられる。

①事実に関する知識を関連付けて構造化し、統合された概念的な知識を獲得している児童生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ここでは、相互性に関する概念的な知識の獲得として評価規準を設定している。

②技能が特定の場面や状況だけではなく、日常の様々な場面や状況で活用可能な技能として身に付いているか、具体的には技能がいつでも、滑らかに、安定して、素早く行われているなどの児童生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ほかにも例えば、「ウェブサイトから、検索ソフトを使って、短い時間にたくさんの情報を収集している。」などとして評価規準を設定することが考えられる。

③探究的な学習のよさの理解として、資質・能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながることなどを、探究的に学習してきたことと結び付けて理解しているなどの児童生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ここでは、学習と生活とのつながりの理解として評価規準を設定している。

| 知識・技能 |
| --- |
| ①みどり川の生物は，互いの特徴を生かし周りの環境と関わって生きていることを理解している。 |
| ②みどり川にすむ生物の状況を捉えるために，生物種や生息環境に応じた方法でフィールドワークを実施している。 |
| ③みどり川の環境と自分たちの生活がつながっていることの理解は，川とそこに生息する生物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 |

# 「単元の評価規準（思考・判断・表現）」作成のポイント

## （２）思考・判断・表現

「思考・判断・表現」の観点については、
「①課題の設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」
の過程で育成される資質・能力を児童生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

①**「課題の設定」**については、例えば、
・複雑な問題状況の中から課題を発見し設定する
・解決の方法や手順を考え、確かな見通しをもって計画を立てる
などの視点による設定が考えられる。

②**「情報の収集」**については、例えば、
・情報を効率的に収集する手段を選択する
・必要な情報を多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積する
などの視点による設定が考えられる。

③**「整理・分析」**については、例えば、
・異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにする
・事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠をもつ
などの視点による設定が考えられる。

④**「まとめ・表現」**については、例えば、
・相手や目的に応じて効果的な表現をする
・学習を振り返り、自己の成長を自覚し、学習や生活に生かす
などの視点による設定が考えられる。

| 思考・判断・表現 |
| --- |
| ①みどり川の環境の変化について，水質調査と踏査活動を結び付けて水質悪化の問題を見付け出し，課題を明らかにしている。 |
| ②みどり川の現状を捉えるために必要な情報について，手段を選択して多様な方法で収集したり，種類に応じて蓄積したりしている。 |
| ③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり，複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 |
| ④みどり川の環境の保全を訴えることについて，調査結果をグラフや地図，写真を使って効果的に表し，報告書にまとめている。 |

# 「単元の評価規準（主体的に学習に取り組む態度）」作成のポイント

## （３）主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視することとしている。これらは、

・自他を尊重する「①自己理解・他者理解」
・自ら取り組んだり力を合わせたりする「②主体性・協働性」
・未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「③将来展望・社会参画」

などについて育成される資質・能力を児童生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

①**「自己理解・他者理解」**については、例えば、
・自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする
・異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする
などの視点による設定が考えられる。

②**「主体性・協働性」**については、例えば、
・自分の意思で目標に向かって課題の解決に取り組む
・自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組む
などの視点による設定が考えられる。

③**「将来展望・社会参画」**については、例えば、
・自己の生き方を考え、夢や希望をもち続ける
・実社会や実生活の問題の解決に、自分のこととして取り組む
などの視点による設定が考えられる。

| 主体的に学習に取り組む態度 |
| --- |
| ①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して，自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。<br><br>②環境保全に向けた探究的な活動体験を通して，自分と違う友達の考えを生かしながら，協働して課題解決に取り組もうとしている。<br><br>③環境保全のために自分でできることに取り組むことを通して，自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。 |

# 事例１　多文化共生への一歩！～ラップで心の距離を縮めよう～（第６学年）

## １　単元の目標

地域における多文化共生を目指した活動を通して，外国人が多く住む地域の実態，それを支援する人々の思いや組織について理解し，地域の一員として異なる文化を越えた共生の在り方を考えるとともに，自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

## ２　単元の評価規準

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価規準 | ①地域には，多文化共生プラザ等，外国人を支援する行政機関があることを知るとともに，多様な人が暮らしているまちのよさや，一人一人の存在が守られていることを理解している。<br><br>②インタビューによる街頭調査を，相手や場面に応じた方法で実施している。<br><br>③多文化共生に対する自らの認識の高まりは，地域の日本人と外国人をつなげるために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。 | ①課題の解決に向けた計画書の作成に当たり，何をするのか，何のためにするのかを意識し，解決の見通しをもって計画を立てている。<br><br>②街頭調査や意見交流会において行う質問について，必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。<br><br>③多文化共生を実現するためのイベントについて，「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。<br><br>④活動を通して学んだ自らの思い，自己の成長，学びによる自己の変容を生かしてラップで表現している。 | ①地域に暮らす外国人との意見交流会において，異なる文化や価値観を受け入れ，尊重するとともに，共通性を見いだそうとしている。<br><br>②異なる文化の共生を目指したイベントの開催に当たって，参加者の状況に応じて対応し，目的意識を明確にして関わろうとしている。<br><br>③異なる文化の共生を目指したイベントを成功させるために，友達と役割を分担したり，自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。 |

# 事例１　多文化共生への一歩！～ラップで心の距離を縮めよう～（第６学年）

3　指導と評価の計画（50 時間）

| 小単元名（時数） | ねらい・学習活動 | 知 | 思 | 態 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1　異なる文化を越えた共生やそこに暮らす人同士の関わりの実態を調べて問題点を見いだそう。(14) | ・地域の実態から問題点を見いだし，解決に向けた今後の活動への見通しをもつ。 | | ① | | ・計画書 |
| | ・グローバルな視点と地域の視点から異なる文化を越えた共生やそこに暮らす人同士の関わりの実態を調べて問題点を見いだす。<br>**具体的事例❶「知識・技能①」**<br>※グローバルな視点による情報収集（国連担当者によるワークショップ，社会科の内容との関連，新聞・書籍等）<br>※地域の視点による情報収集（地域住民への街頭調査，支援する行政機関への訪問等） | ① | | | ・意見文 |
| 2　地域に住む様々な国の人々との意見交流会を開催し，問題点の解決策を探ろう。(8) | ・街頭調査や意見交流会開催の目的や質問項目，情報収集の蓄積方法を明確にする。 | | ② | | ・情報収集計画シート |
| | ・街頭においてインタビューを行う。 | ② | | | ・ノート<br>・集計シート |
| | ・地域に暮らす外国人との意見交流会を開催し，問題の原因を探ったり，問題の解決に向けたよりよい方法について考えを交流したりする。 | | | ① | ・行動観察<br>・作文シート |
| 3　異なる文化を越えた地域の共生に向けて，できることを決定しよう。(8) | ・地域の異なる文化を越えた共生や関わりに向けて，今の自分たちにできることについて根拠を明らかにし決定する。<br>**具体的事例❷「思考・判断・表現③」** | | ③ | | ・作文シート |
| | ・専門家からの評価を通して，提案のよさを自覚するとともに，身近な人をターゲットにするというアドバイスを踏まえ，今後の取り組み方への意識を高める。<br>**具体的事例❸「主体的に学習に取り組む態度②」** | | | ② | ・作文シート |
| 4　魅力的なイベントを協力して準備し，実行しよう。(14) | ・魅力的なイベントに向けて，友達と協力して準備し，保護者やこれまでお世話になった外国人や地域の人を招いて開催する。 | | | ③ | ・計画表<br>・行動観察<br>・作文シート |
| | ・「異なる文化を越えた地域の共生」について，探究的に学習したことによって分かったこと | ③ | | | ・発言<br>・作文シート |

**※単元の評価規準の指導計画への位置付けについては、総括的な評価を行うためにも、児童生徒の姿となって表れやすい場面、全ての児童生徒を見取りやすい場面を選定することが重要である。**

学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であること。したがって観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要であること。

（平成31年３月29日付け文部科学省通知より）